



# ひらぼ

第31報（令和元年12月）

11月3日（日）に行われた枚方公園青少年センターでのワンデイフェスティバルに初めて参加し、綿菓子を作って販売しました！その時の参加メンバーの感想です。

「わたあめのおもひで」

秋は霜月。縁日でもすなるといふ綿菓子といふものをひらぼでもしてみむとしてするなり。

作業の折、機器に結晶貼り付くことあり。その様溶くことなきかき氷のやうなり。シヤクシヤクと口に旨し。「あなもったいなき」と始末の心にて綿菓手に散りばめたれば、世のおぼえうなぎ登りにて候。その色とりどりの結晶の輝き、まさに砂糖の宝石箱といふべき他なし。

閉店の後、休らひとして大き綿菓子をこしらえるも、その様まるで雲の峰のやうで綿菓子いとをかし。

（本文章は古文“つばさ”を目指したものであり、文法について保証するものではありません。あらためて当日お世話になった方、満足に提供できずご迷惑をおかけした方々に感謝とお詫び申し上げます。）

匿名希望

ワンデイフェスタではハラハラした。綿菓子を作る時に空回りしたりして、そのせいでお客さんを待たせてしまったことが原因。

売れ行きは良かった。中高生には買いやすい値段設定にしたところが良かったかもしれない。めちゃくちゃ嬉しいと言うわけではないが、売れたことで安心できた。

反省点としては、カップに入れた綿飴が小さい子に対して食べづらそうになっていたこと。あれなら棒の方がいいかと思う。

ただ、その中でも綿飴ができた際に副次的に出来るザラメを振りかけたが、非常に美味しく成功だったと思う。

何より、小さい子にウケが良く、ニコニコしてくれたのが良かった。グッジョブ。

武田・フォン・次郎丸

緊張したけど頑張れたと思う。飲食物を販売すること自体が初めてだったし、売り上げがどうなるかドキドキしていた。でも、予想以上の売り上げで良かったです。また、不安な気持ちを乗り越えて販売を続けられたことは、頑張ったところだと思う。何よりも、小さな子が買ってくれて、その子が笑顔になってくれたので良かった。

次回への改善点としては、綿飴を作る作業を前持って練習した方が良かったと思う。また、様々なシチュエーションをイメージして備えておくべきだと思った。何より、役割分担をしっかりとった方がよかったと思う。

K.M

## ひらぼう写真展（秋）

11月15日に行った紅葉狩りで参加メンバーが撮影した写真です。



紅葉

色気より食い気！



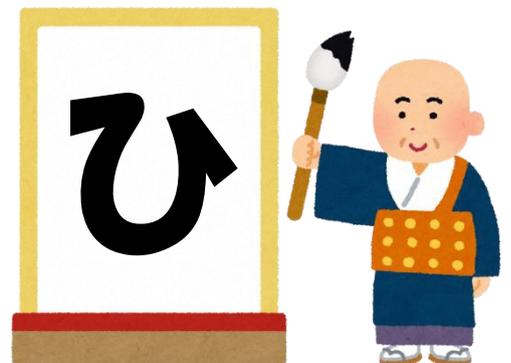
（無題）

青空とキラキラ紅葉



### 11月・女子ひらぼう

手間ひまごはん～だし巻き卵と土鍋ごはん～  
丁寧に日常の食事を作ってみました。  
だしの味が、素材の味が、おいしい～



～発行元・お問い合わせ先～

枚方市ひきこもり等子ども・若者相談支援センター（枚方市子ども総合相談センター **となとな** 内）

電話：050-7102-3228 / 相談専用電話：072-843-2255 / FAX：072-846-7952